

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成29年12月21日 (2017.12.21)

【公開番号】特開2016-93271(P2016-93271A)
 【公開日】平成28年5月26日 (2016.5.26)
 【年通号数】公開・登録公報2016-032
 【出願番号】特願2014-230443(P2014-230443)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】平成29年11月10日 (2017.11.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

音声制御レジスタに設定された設定値に基づき動作し、所定の記憶手段に記憶されたデータを読み出して音声信号を再生する音声合成手段と、

レジスタアドレスで特定される所定の音声制御レジスタに、所定の設定値を設定するべく設定値データと前記レジスタアドレスを、音声合成手段に伝送して音声演出を制御する演出制御手段との間を、

前記設定値データや前記レジスタアドレスである伝送データを、所定の単位で伝送する双方向通信可能なパラレル信号線と、伝送データの種別を特定可能な管理データを伝送する管理データ線と、パラレル信号線の動作モードが、送信モードか受信モードかを特定する制御信号線と、を含んで接続した遊技機であって、

制御信号線を送信モードに設定した状態で、管理データ線に所定の管理データを出力すると共に、パラレル信号線に前記レジスタアドレスを出力するアドレス手段と、

前記アドレス手段を機能させた後、制御信号線を送信モードに設定した状態で、管理データ線の管理データを变化させると共に、パラレル信号線に前記設定値データを出力する設定手段とを、演出制御手段に設けることで、音声合成手段を機能させると共に、

前記アドレス手段を機能させた後、制御信号線を受信モードに設定した状態で、管理データ線の管理データを变化させると共に、パラレル信号線からデータを取得する取得手段を、演出制御手段に設けることで、音声合成手段の動作状態を演出制御手段が把握するように構成されていることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記取得手段は、送信動作の異常を特定可能な情報を前記パラレル信号線から取得している請求項 1 に記載の遊技機。

【請求項 3】

送信動作の異常を特定可能な情報は、アドレス手段と、設定手段が機能した後、音声合成手段から演出制御手段に自動的に返送されるよう構成されている請求項 2 に記載の遊技機。

【請求項 4】

アドレス手段と、設定手段が機能した後、伝送データに異常を認識した音声合成手段は

、受信した設定値データに基づく動作を回避するよう機能する請求項１～３の何れかに記載の遊技機。

【請求項５】

前記レジスタアドレスは、一バイト長であり、前記設定値データは、一バイト又は複数バイト長である請求項１～４の何れかに記載の遊技機。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００９

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００９】

上記の目的を達成するため、本発明は、音声制御レジスタに設定された設定値に基づき動作し、所定の記憶手段に記憶されたデータを読み出して音声信号を再生する音声合成手段と、レジスタアドレスで特定される所定の音声制御レジスタに、所定の設定値を設定するべく設定値データと前記レジスタアドレスを、音声合成手段に伝送して音声演出を制御する演出制御手段との間を、前記設定値データや前記レジスタアドレスである伝送データを、所定の単位で伝送する双方向通信可能なパラレル信号線と、伝送データの種別を特定可能な管理データを伝送する管理データ線と、パラレル信号線の動作モードが、送信モードか受信モードかを特定する制御信号線と、を含んで接続した遊技機であって、制御信号線を送信モードに設定した状態で、管理データ線に所定の管理データを出力すると共に、パラレル信号線に前記レジスタアドレスを出力するアドレス手段と、前記アドレス手段を機能させた後、制御信号線を送信モードに設定した状態で、管理データ線の管理データを变化させると共に、パラレル信号線に前記設定値データを出力する設定手段とを、演出制御手段に設けることで、音声合成手段を機能させると共に、前記アドレス手段を機能させた後、制御信号線を受信モードに設定した状態で、管理データ線の管理データを变化させると共に、パラレル信号線からデータを取得する取得手段を、演出制御手段に設けることで、音声合成手段の動作状態を演出制御手段が把握するよう構成されている。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１０】

本発明は、取得手段を備えるので、音声合成手段の動作状態の異常を把握することができ、音声演出が意味もなく途絶えたり、或いは、スピーカから異音が発生するようなトラブルを未然防止することができる。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１１

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１２

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正６】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１３

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】削除

【補正の内容】